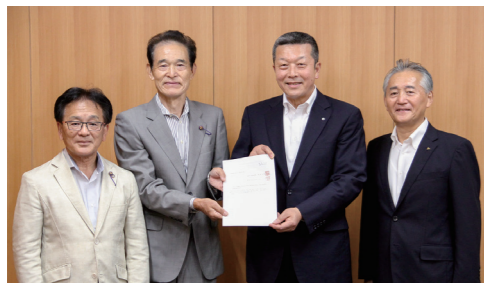


新庁舎 1 期 工事完成

様々な機能が集約



意見書を提出する馬淵代表監査委員
(左から2人目)

5 年度決算の状況

会計名	収入	支出
一般会計	85億1024万円	82億5132万円
特別会計		
国民健康保険事業	8億5041万円	8億4104万円
農業集落排水事業	2億1258万円	1億9921万円
後期高齢者医療事業	8723万円	8306万円
合計	96億6046万円	93億7463万円

財政健全化判断比率は「健全」を維持

「財政健全化法」に基づく5年度の一般会計、特別会計、第3セクターなどの決算を含めた各指標は、いずれも基準を下回りました。

●健全化判断比率

各指標	5年度	4年度	比較
実質赤字比率 (15%)	赤字なし	赤字なし	—
連結実質赤字比率 (20%)	赤字なし	赤字なし	—
実質公債費比率 (25%)	7.4%	7.9%	△0.5
将来負担比率 (350%)	比率なし	12.8%	皆減

※各指標の()内の%は早期健全化の基準で、数値が低いほど健全な財政運営になります。
※将来負担比率は、将来負担見込額が充当可能な財源の額を下回り、比率なしとなりました。

●資金不足比率

経営健全化基準は20%未満で、対象となる農業集落排水事業の資金不足は発生していません。



完成した役場庁舎

9 月定例会議

9月定例会議は、9月6日から12日までの7日間の日程で行われました。町長から提出された議案は、5年度会計の決算認定のほか6年度補正予算など20件が提出され、原案どおり『決定』しました。
一般質問は3人の議員が登壇し、町の対応や考えをいただきました。

前年度比支出11億円減

一般・特別会計決算

5年度全会計の総支出額は、93億7463万円
で前年度比11億6677万円11・1割減少しました。

一般会計の支出総額は、82億5132万円
で前年度比1億583万円12・3割減少しました。
主な要因は、新庁舎建設事業(1期工事)や高齢者福祉施設建設事業の減によるものです。

三つの特別会計の支出総額は、11億2331万円
で前年度比840万円0・7割減少しました。

積立基金残高は63億2715万円
で前年度比6億6496万円11・7割増加しました。そのことで、将来負担比率が改善しました。

一般会計決算の詳しい内容は、6、7ページをご覧ください。

監査委員の意見

財政健全化判断比率改善を評価

5年度決算は全ての会計が黒字となりました。歳入では、町民税、固定資産税、軽自動車税とも徴収率が前年度を上回り、法に基づいた不能欠損の実施と徴収への取り組みを評価します。

また、全会計の地方債残高は前年度に比べ増加したものの、将来負担比率及び実質公債費率が改善されており、財政健全化に努めています。

5年度は、物価高騰による影響を受けた町民に対する様々な施策が、きめ細かに実施されており、評価します。

今後も、更なる町勢発展と、町民福祉の向上、町総合計画後期計画の実現を望みます。

議会を傍聴して

町女性団体連絡会



町内3つの女性団体で組織する町女性団体連絡会(近藤とし子会長)会員ら15名は、9月9日に開催された9月定例会議(一般質問)を傍聴しました。
会員らは、真剣な面持ちで会議を傍聴しており、「議場は、テレ

ビでは、感じられない緊張感があった。」「議員を近くに感じることで、質疑応答もわかりやすく議場の雰囲気を感じることができた。」「議場内では、自分たちも身が引き締まる思いがした。」などと感想を述べていました。